

新宿区教育委員会会議録

平成26年第4回定例会

平成26年4月4日

新宿区教育委員会

平成26年第4回新宿区教育委員会定例会

日 時 平成26年4月4日(金)

開会 午後 2時59分

閉会 午後 3時42分

場 所 新宿区役所6階第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

委 員 長	白 井 裕 子	委員長職務代理者	羽 原 清 雅
委 員	菊 池 俊 之	委 員	今 野 雅 裕
委 員	松 尾 厚	教 育 長	酒 井 敏 男

説明のため出席した者の職氏名

次 長	中 澤 良 行	中央図書館長	藤 牧 功太郎
教育調整課長	木 城 正 雄	教育指導課長	横 溝 宇 人
教育支援課長	遠 山 竜 多	学校運営課長	山 本 誠 一
文化観光課長	橋 本 隆	統括指導主事	早 川 隆 之
統括指導主事	小 林 力	統括指導主事	長 井 満 敏

書記

教育調整課 調整主査	高 橋 美 香	教育調整課 管 理 係	高 橋 和 孝
---------------	---------	----------------	---------

議事日程

報 告

- 1 教育委員会事務局幹部職員の人事異動について（次長）
- 2 平成26年度新宿区立小・中学校等児童生徒数について（学校運営課）
- 3 平成26年度新宿区立幼稚園園児数について（学校運営課）
- 4 平成26年度の夏目漱石関連事業について（文化観光課）
- 5 その他

◎ 開 会

○白井委員長 ただいまから、平成26年新宿区教育委員会第4回定例会を開会します。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、今野委員にお願いいたします。

なお、本日は教育委員会に関連する事務事業についての説明を受けるため、教育委員会会議規則第15条の規定に基づき、地域文化部文化観光課長に出席していただいております。

本日は議案がございませんので、事務局から報告を受けます。

- ◆ 報告1 教育委員会事務局幹部職員の人事異動について（次長）
- ◆ 報告2 平成26年度新宿区立小・中学校等児童生徒数について
- ◆ 報告3 平成26年度新宿区立幼稚園園児数について
- ◆ 報告4 平成26年度の夏目漱石関連事業について
- ◆ 報告5 その他

○白井委員長 報告1から4について一括して説明を受け、質疑を行います。

事務局から説明をお願いいたします。

○次長 それでは、教育委員会事務局幹部職員の人事異動について御報告を申し上げます。

報告資料1をごらんください。こちらのほうに名簿がございます。今回、事務局のほうでは、人事異動が大規模にございました。本来でしたら、異動した職員だけ御案内をしているところがございますけれども、せっかくでございますので、ここに記載の職員を私のほうから紹介させていただきたいと思っております。

まず、事務局次長、私、中澤でございます。どうかよろしくをお願いいたします。子ども家庭部長から異動してまいりました。

次でございますが、中央図書館長、引き続き藤牧功太郎でございます。

○中央図書館長 藤牧でございます。どうぞよろしくお申し上げます。

○次長 次に教育調整課長、木城正雄でございます。

○教育調整課長 木城でございます。どうぞよろしくお申し上げます。

○次長 財政課長からの異動でございます。

次に教育指導課長、横溝宇人でございます。

○教育指導課長 よろしくお願ひいたします。

○次長 品川区からの異動でございます。

次が教育支援課長、引き続きでございますが、遠山竜多でございます。

○教育支援課長 遠山です。よろしくお願ひします。

○次長 次、学校運営課長、山本誠一でございます。

○学校運営課長 山本でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

○次長 私と一緒に子ども家庭部から異動してきてございます。

次に教育指導課統括指導主事の早川隆之でございます。

○統括指導主事 早川でございます。よろしくお願ひいたします。

○次長 大田区からの異動でございます。

同じく統括指導主事、小林力でございます、指導主事からの昇任でございます。

○統括指導主事 小林でございます。よろしくお願ひいたします。

○次長 最後でございますけれども、統括指導主事、引き続きの長井満敏でございます。

○統括指導主事 長井でございます。よろしくお願ひいたします。

○次長 前任の職員の行き先などについては、その下に参考としてつけてございますので、ごらんいただければと思います。

私からは以上でございます。

○学校運営課長 それでは報告2、平成26年度新宿区立小・中学校等児童生徒数について、御報告申し上げます。

お手元に配布の新宿区立小・中学校等児童・生徒数をごらんいただけますでしょうか。まず一番上段の表の小学校の状況でございます。児童数につきましては、昨年度と比べまして、合計で60名ふえて、7,959名となっております。次に学級数でございますけれども、これは286クラスということにして、昨年度が283クラスでございますので、昨年度と比較いたしまして、3クラスの増となっております。

小学校の特徴的なところを御紹介申し上げますと、まず、新1年生でございますけれども、全ての小学校におきまして、35人学級対応の学級編制ができました。なお、昨年度に比べて大きく人数が変動した学校を御紹介申し上げますと、西戸山小学校が昨年に比べて30人の増、淀橋第四小学校が21人の増、落合第一小学校が21名の減となっております。

次に新2年生でございますけれども、四谷小学校が76名、落合第四小学校が71名でございますので、35人学級対応ということであれば、それぞれ本来3学級のところでございますけ

れども、昨年度に引き続き教室の確保が困難ということでございまして、2学級とさせていただきます。戸塚第二小学校も38人でございますから、本来2学級のところでございますけれども、同じく教室の関係で1学級とさせていただきます。

そして、さらにこの新1年生の特徴といたしましては、全体で昨年度に比べて124名の増となっております。また、3年生でございますけれども、3年生になりますと、35人学級から40人学級になります。この影響で今年度40人学級に戻った学校といたしましては、市谷小学校が3クラスから2クラス、愛日小学校が2クラスから1クラス、西新宿小学校が2クラスから1クラス、それから、西戸山小学校が3クラスから2クラスといった変化がございました。

続きまして、中学校の状況でございます。

生徒数につきましては、昨年と比べて28名減の2,812名でございます。クラス数につきましては、2クラス減の86クラスでございます。中学校の特徴的なところをかいつままで申し上げますと、まず新1年生でございますけれども、西早稲田中学校が158名、新宿西戸山中学校が143名でございますので、35人学級対応ということであれば、それぞれ5学級の学級編制というところでございますけれども、先ほどと同様に教室の確保が困難ということもございまして、4学級とさせていただきます。新宿中学校につきましても、74名でございますので、本来3学級のところでございますけれども、2学級となりました。昨年度に比べて大きく人数が変動しました中学校を申し上げますと、西早稲田中が21名の増、落合第二中が23名の増、西新宿中が22名の増、牛込第二中学校が24名の減となっております。

引き続き、次は中段以下の特別支援学級・学校について御紹介いたします。

まず、小学校の部ですけれども、この横に愛日以下1から5と書いてありますところの、知的障害につきましては、昨年と同様に今年度は合計65名でございます。また、6の余丁町につきましては、昨年度、初めて東京女子医科大内に病弱の院内学級を設けており、昨年度は7名だったところ、今年度は4名でございます。

その下の7から9の通級学級でございます。網かけの部分が内数でございます。去年がこの3学級で101名に対して、今年度は123名と22名の増となっております。10の新宿養護学校でございますが、昨年度20名のところを今年度は32名ということで、12名の増となっております。合計で92名だったところが101名ということで、9名の増加でございます。

以上が小学校の部でございます。

続きまして、特別支援学校の中学校の部でございます。

1 から 3 の知的障害については、昨年度の41名に対しまして、今年度は35名でございますので、6名の減、4、5の通級学級でございますけれども、昨年度の23名に対しまして、今年度が28名でございますので、5名の増です。新宿養護学校でございますけれども、昨年の16に対して、今年度が15名ということで、1名の減でございます。合計で昨年と比べて7名の減になったものでございます。

最後に日本語学級でございます。大久保小学校でございますけれども、昨年と同様に2学級ございまして、昨年度の28名に対してことし34名ということで、6名の増でございます。中学校の日本語学級でございますが、これは新宿中学校内に昨年度初めてできました、日本語学級でございますが、昨年度15名、学級数は1のところ、今年度は11名で学級数は1学級でございます。

以上が報告2でございます。

引き続き報告3について御報告申し上げます。お手元の区立幼稚園園児数を御参照いただけますでしょうか。幼稚園につきましては、3歳児につきましては、全体が184名ということでして、昨年度と比べて19名の減でございます。この減の主な要因といたしましては、東戸山幼稚園が私立子ども園となったことによるものでございます。

4歳児につきましては、296名、昨年度と比べて5名の減、5歳児につきましては、309名、昨年と比べて34名の大幅の増となっております。3歳児、4歳児、5歳児を合計いたしますと、昨年度が779名に対しまして、今年度は789名でございますので、全体で10名の増加となっております。区立幼稚園の傾向につきましては、東戸山幼稚園が私立の子ども園となったことや、戸塚第一幼稚園の4歳児クラスが休学級になったという、大きな減少要因がございますけれども、それにもかかわらず、全体として10名増加したということが、今年度の大きな特徴となっております。

簡単ではございますけれども、以上で報告を終わらせていただきます。

○文化観光課長 それでは、平成26年度夏目漱石関連事業について御説明をさせていただきます。

平成29年2月、今、3年を切ったところでございますが、漱石生誕150周年を迎えます。ここにあわせまして、仮称「漱石山房」記念館建設の整備を進めているところでございますが、今年度の事業の概要について御説明をさせていただきます。

お手元に配布いたしました資料の1番目でございますが、仮称「漱石山房」記念館の整備、記念館の概要等が記載してございます。

開館でございますが、29年2月、漱石生誕150周年のときに合わせてということで、準備を進めております。

場所でございますが、新宿区早稲田南町7番地、漱石が晩年の9年間を過ごした、旧居「漱石山房」のありました地、現在、漱石公園と区立の区営アパートが現状建っておりますが、その地に整備をする予定でございます。

敷地面積につきましては、区立の漱石公園を含めまして、およそ2,000平米ということで、現状は漱石公園のほうがおおよそ1,000平米、区営住宅のほうが1,000平米程度ということになっております。

建物の規模でございます。延床面積1,200平米程度を予定しております。構造といたしましては、主体となる部分につきましては、鉄筋コンクリートづくりということで、この鉄筋コンクリートの記念館をつくって、その中に当時ございました「漱石山房」、木造の家屋でございますが、「漱石山房」を復元する。そんなような計画で今、進めているところでございます。

階層といたしましては、2から3層ということで、これは設計の中で、今後さまざまな提案が出てくるかと思いますが、地下を1階つくるかどうか、地上部分は2階建てということになろうかというふうに考えております。

記念館の諸室の概要ですが、展示室、こちらの中には先ほど申し上げました、当時ございました「漱石山房」の復元、家屋を含めまして、常設企画展示室、図書情報センター、あるいはコーヒーなどを飲みながら、ゆったりと漱石の文学に親しめるブックカフェ、さまざまな企画、講演会ですとか講習会、そんなようなものを行います講座室、ミュージアムショップ、それから、当時の「漱石山房」の庭等を再現するような形での漱石公園とのつながり等を、今、諸室の概要として考えているところでございます。

(2) 建築設計事業者の選定でございますが、現在、仮称「漱石山房」記念館設計事業者選定委員会を設置しております。外部委員の方、学識経験者3名、内部委員、区の職員が2名ということで、合計5名でこの選定委員会のほうを構成してございます。公募型のプロポーザル方式により事業者を選定しております。現在、平成26年2月に事業者の第一次の募集を行いまして、3月17日に書類審査により第一次審査が終了しているところでございます。第一次審査の応募総数は合計9社から御応募いただきまして、そのうちの6社を書類審査通過ということで、第2次審査に向けて今、事務的に準備を進めているところでございます。来週の4月8日から4月22日までにかけて、第二次の審査のための技術提案書というの

を受け付けてまいります。第二次審査でございますが、来月5月を予定しております。この際に、先ほど申し上げました6社によりますプレゼンテーション並びに審査員によるヒアリング、それから、書類審査等で事業者、事業者の候補者を決定したいと思います。その後、区と協議を進めまして、その候補者を事業者として、同じく5月中には決めたいというふうには、ただいまそのようなスケジュールで進めているところでございます。

そのほか今年度につきましては、この決まりました建築設計事業者による基本設計、実施設計等を進めるとともに、記念館内部におきます展示の構成を設計していきます。展示の設計の事業者も確定をしてみたいというふうには考えてございます。建物の躯体の建築と、それから内部のいわゆるハードとソフトの部分の連携をとりながら、この記念館の整備を進めていきたいと思っております。

(4)でございますが、記念館の運営方針の検討ということで、こちらのほうは中の実際に、例えばこの一つの例を申し上げますと、区の直営形式でいくのか、あるいは指定管理者等に従来どおりの方法でやっていくのか、そんなようなことも含めて記念館の運営の方法を検討してみたいというふうには考えております。

引き続きまして、大きな2番、情報発信になりますが、まずはイベントでございます。昨年度、ボリュームワン、ボリュームツーとやってまいりました。参考ということで、下のほうに書かせていただいております。今年度も引き続きこのような事業の周知等々も兼ねまして、施設の整備プロジェクトイベント、ボリュームスリー、ボリュームフォーということで、2回のイベントを予定しております。26年の12月、こちらは漱石のお亡くなりになった日ということで、漱石日というふうには呼ばれておりますが、12月と、それから生誕月であります、年が明けた2月ということで、2回予定をしているところでございます。

恐れ入りますが、裏面のほうをおめくりください。(2)でございますが、新宿区夏目漱石コンクール、これはことしの新たな事業ということで、御報告をさせていただきます。こちらにつきましては、私ども文化観光課と教育委員会との共催ということで進めさせていただいているところでございます。

概要でございますが、漱石を知り、また、その漱石の作品に触れる機会を創出するとともに、この記念館事業について情報発信をして、開館後の事業展開につなげるために、当コンクールを実施するものでございます。特に今回につきましては、小学生、中学生、高校生、いわゆる次世代を担っていく若い世代にターゲットを絞りまして、このコンクールのほうを展開してみたいというふうには考えております。

具体的な内容ですが、2つ大きな柱がございます。1つ目は、読書感想文コンクール、こちらのほうは中学生、高校生を対象としたもので、「夏目漱石 ワタシの一行」というふうにタイトルを、テーマを設定させていただいております。夏目漱石の作品を読んだ上で、自分の心に深く残った1行、1つのセンテンスを選んだ上で、なぜその1行を選んだか、あるいは、その1行から受けた自分の印象ですとか、自分の今後の生き方とか、そういうようなものを400字ないし800字、この辺の字数につきましては、また今後、審査委員をしていただける先生の方々の御意見も聞いた上で、精査してまいりたいと思っておりますが、800字程度で表現をしていただくかというふうに考えております。

それから、(イ)のほうでございますが、小学生を対象とした絵画コンクール、こちらのほうのテーマは「わがはいはネコである」、漱石の代表作になります、「吾輩は猫である」にちなみまして、「猫の目から見た世界」ということで、作品をかいていただくつもりです。自分がネコになったつもりで、あるいはネコの気持ちになって、猫の目から見た人間の世界、あるいは猫同士の世界、そのようなものがどんなふうにかけるか、想像画とか、あるいは漱石の小説、エッセイなどを読んでからとか、あるいは読んでいなくてもかけるものなども、そういうものも広く募集をしてまいりたいというふうに考えてございます。

表彰ですが、審査委員長には著名人を迎えた上で、作品を審査して、グランプリ、優秀賞、佳作などの各賞を選出してまいりたいというふうに考えております。副賞につきましても、これから企業の後援、協賛等もお願いをして、幾つか設定をしていきたいというふうに考えてございます。なお、表彰式でございますが、先ほど御説明させていただきました、イベントの中で、12月に開催を予定しております、ボリュームスリーのイベントの中で、あわせて実施してまいりたいというふうに考えてございます。

周知方法ですが、まずはパンフレット、ポスター等の作成によりまして、広く呼びかけてまいりたいと思っております。こちらのほう、特にこの周知につきましては、教育委員会の御協力も得ながら、各学校への協力依頼を、重点を入れてやっていきたいと考えてございます。

新宿区内の小・中・高校はもとより、漱石のゆかりの地、例えば熊本市ですとか、松山市、鎌倉市、文京区、あるいは近いところだと、千代田区、そのような漱石が足跡を残したところ、あるいは小説の舞台になったようなところ、そんなようなところの自治体を中心に、作品の募集を呼びかけてまいりたいと思っております。

そのほか、(イ)のところですが、区のホームページですとか、広報ですとか、あるいは新聞の紙面広告なども活用いたしまして、広く全国から作品を募集していきたいというふう

に考えてございます。

先ほど申し上げました、関係者、協力依頼団体の一覧がこちら、地方自治体、あるいは地域の協力団体、それから今後、御協力、御協賛をいただきたい企業ということで、こちらのほうに記載をしてございますので、ごらんになっていただければと思います。

最後に執行体制でございますが、先ほど申し上げましたとおり、私ども、文化観光課と教育委員会事務局教育支援課、教育指導課が事務局になりまして、新宿区並びに新宿教育委員会共催ということで、本事業を進めさせていただきたいと思っておりますので、また教育委員の皆様にも御協力のほどよろしくお願いいたします。

最後でございますが、昨年より創設させていただいております、夏目漱石記念施設整備基金のほうでございます。こちらにつきましては、現在、ここに記載してありますとおり、3月20日現在でございますが、およそ700件の皆様から3,600万円余の御寄附をいただいているところでございます。目標額は一応2億円というふうに設定をさせていただいておりますので、まだまだ目標には遠い数字でございますが、今年度も引き続きイベントですとか、各事業なども通じて、あらゆる機会を通じて、この整備基金のほう、周知をしてまいりたいと思っております。取り組みのほうはかなり、件数的には伸びてきているのですが、額がなかなか難しいというところもございます。事務局一丸となって、取り組んでまいりたいと思っておりますので、こちらのほうもまた改めて御理解、御協力のほどよろしくをお願いしたいと思います。

以上でございます。

○白井委員長 説明が終わりました。

報告1について、御意見、御質問のある方はどうぞ。

それでは、今年度よろしくお願いいたします。

では、次に報告2について、御意見、御質問のある方はどうぞ。

○羽原委員長職務代理者 早速で恐縮ですが、お願いですが、この単年度の単純な数字だけだと、この表から何を読み取ればいいのか、アマチュアにはわからない。やはり前年度の比較とか、何年かの経過とか、あるいはピーク時がどうか、何らかのもうちょっと一工夫、今後、お願いできればと思いますが。よろしく申し上げます。

○学校運営課長 羽原委員御指摘のとおり、この単表のみではなかなか実態のほうが見づらい部分があるかと思っておりますので、今後、私どももどういった形が一番わかるかどうかも含めまして検討させていただきまして、改善に努めてまいりたいと考えております。

○白井委員長 ほかにありますか。

小学校の百二十何名かが増になったと。この要因というのわかりますでしょうか。

○**学校運営課長** 先ほど御報告の中で、新2年生の数が昨年度に比べまして、124名の大幅増になっております。特にマンション等、何か大きな施設ができたというところは、ここにはないですけれども、ただ、学齢の人口推計を見ますと、ちょうどこの7歳児のところは全体でその前の8歳児に比べて、やはり150名ぐらい全体で多ございまして、その全体の影響がやはり区立小学校に入っているところにも響いてきているのかなというところがございます。

○**白井委員長** その今の御説明でいうと、人口推計と連動しているということは、引き続き例えば幼稚園とか、保育園を終わった後も、ずっと地元の小学校のほうに定住というか、そういう形で見えていいということでしょうか。

○**学校運営課長** このところやはり、ゼロ歳児から含めまして、出生率、それから、各学齢がふえております。ただ、どういたしましても、やはり就学前は新宿で、その後はどうしても郊外だとか、さまざまな要因もありますので、必ずしもそうではございませんので、だんだん逡減していく傾向はありますが、ただ、学齢ごとに山あり谷ありでございまして、その辺がどうしても自然的に出てくるというところで、ここはちょっとやはり突出しているのかなと思います。

○**白井委員長** ほかに御意見、御質問ありますでしょうか。

[発言する者なし]

○**白井委員長** よろしいでしょうか。それでは、先ほど羽原委員より要望がありましたので、御検討のほうよろしく願いいたします。

それでは、ほかに御意見、御質問がなければ、報告2の質疑を終了いたします。

次に報告3について、御意見、御質問のある方はどうぞ。

○**今野委員** 幼稚園のあり方については、今、過渡期でこれから全体の調査、それから全体の視野の中でいろいろ検討されていくわけですけれども、実態として少し質問ですけれども、3歳児は各幼稚園とも定員ぎりぎりのところの園児数になっています。それで、これは恐らく定員がそこまでなので、そこまでしか入れなかったということだと思いののですが、希望して入れなかったような子どもは随分あったのでしょうか。それとも、ほぼ定員に見合った数でおさまったのか、そのあたりの実態はどんな状況でしょうか。

○**学校運営課長** 補欠登録者数とございまして、一番わかりやすいのは、1月15日現在で、補欠登録者が今年度3歳児につきましては57名ございました。前年の比較といたしますと、25年度は66名ですので、若干は補欠登録者、お待ちになっている方が少なくなった。また、ど

うしても定員の関係で入れないということがございますので、私立幼稚園等々に入園なさったのかなと思っています。この年がすごく突出しているということではなかったということでございます。

○**今野委員** 義務教育ではないから、全部入れなければいけないということでもないけれども、全部合わせると60人ぐらいというのは、結構入れない子どももいるなど改めて思いました。

○**白井委員長** ほかに御意見、御質問とかありますか。

○**羽原委員長職務代理者** これは幼稚園の統廃合の問題があったところですが、例えば戸塚第一は園児数が、5歳児11人ということは、12人という基準からすると、なくなってもやむを得ないと。来年度には最低水準に達しないと閉園、休園ということを意味しているのですか。それで、つまり、12人だったと思いますけれども、その基準を前年度では一度検討するというお話があったのですが、結局、検討のないままに進んでしまったと。つまり、統廃合の条件をつくっているような対応ではなくて、やはり実態として、この3歳児、4歳児が入れない状況、学級がなくなると、5歳児だけというのはなかなか難しい環境だと思うんですね。ということで、12人という数を存続させるというなら、それはそれでやむを得ないのですが、一度きちんと検討していただきたい。ほかの区よりは新宿区は幼稚園が多い、だから、少し減らしてもということなのか、いずれにしても、ニーズはこの幼稚園の、例えば3歳、4歳、5歳児と、3年にわたるものだったら、来る可能性も一般の保護者の立場からあると思うんだけど、1年だけという、いよいよ減ってくるんですね。2年保育のところもそういう問題を実際に抱えているということからすると、僕はやはり12人という数字でいいのかどうか、かつて、8人という時代があったことからすれば、こういう制度を固めることによってニーズを阻害しているのではないかなと、そういう印象があるんです。特に、合併、統合のときの保護者たちの声を聞いていると、早稲田に行っても、戸一に行っても、そんな雰囲気がありまして、ぜひ本格的に検討していただければと、お願いしたいと思います。

○**学校運営課長** 学級編制基準も含めて、委員の皆様御案内のように、ニーズ調査等々もやっておりますし、また幼稚園のあり方も今後どうやっていくかというのを検討も加えています。そういった中で、全体、それから今、羽原委員のほうから戸塚地域ということがございましたけれども、いずれにいたしましても、このニーズ調査を踏まえながら、それから、幼稚園の今後のあり方も含めた中で、学級編制も含めて、今後、十分に検討してまいりたいと考えております。

○**羽原委員長職務代理者** 検討されるということですね。大まかに検討ということではなくて。

○教育長 具体的に出せますか。

○学校運営課長 全体もさることながら、今御指摘があったような問題も私ども認識しておりますので、それも含めて検討してまいりたいと考えております。

○白井委員長 この問題は、前年度から羽原委員のほうからかなり事務局への具体的な要望として出ていると思いますので、きょうの質問、御意見もそのような形で具体的な回答という部分を求めていますので、よろしく願いいたします。

そのほか報告3について、御意見、御質問、ありますでしょうか。

[発言する者なし]

○白井委員長 よろしいですか。

では、ほかに御質問がなければ、報告3の質疑を終了いたします。

次に報告4について、御意見、御質問のある方はどうぞ。

○松尾委員 質問ですけれども、パンフレット・ポスターの周知というところに、ゆかりの地、熊本市、阿蘇市、玉名市、松山市、鎌倉市、文京区等とありますけれども、夏目漱石にゆかりのある地域というのは、新宿だけではないということになりますと、その他の自治体等で何らかの事業が行われる可能性もあるのではないかと思います、そのあたりについて、何か承知していることはございますか。

○文化観光課長 今のところ、例えばこの生誕のときに具体的にどのような事業をやるかというところまでは把握はしてございませんが、ゆかりの地ということではなくて、それぞれ、例えば鎌倉ですと日本近代文学館、そういったようなものがありました。熊本でもそれぞれ漱石の旧居跡というのが残っていたり、そのものが実物で残っていたりいたしますので、そういうところにつきましては、それぞれの館で記念事業というのを展開していくというふうには一部情報は聞いておりますが、例えば今年度、熊本で具体的に何かをやるとか、あるいは松山で何かをやるとか、その辺につきましては、今のところは具体的な御相談というか、そのような情報はまだいただいておりません。それぞれの、ここに記載してある各自治体につきましては、教育委員会も含めまして、先般、それぞれ御協力をいただくということで、お願いをしまいたところでございますが、その範囲ではそのような情報はまだつかんでおりません。

○松尾委員 そのような申し出を行ったということで、必要があればお互いに協力しながらやっていくという理解でよろしいでしょうか。

○文化観光課長 はい。

○松尾委員 わかりました。ありがとうございます。

○羽原委員長職務代理者 この協力依頼関係、これはいいと思うのですが、一つは東北大学、それから、全集を基本的に手がけた岩波書店、このあたりに何か残っているか、協力してもらえれば、むしろ新潮社は地元だけれども、岩波のほうがはるかに集積はあるはずなので、いかがでしょうか。

○文化観光課長 ただいま委員の御指摘のとおり、東北大学には漱石文庫と言われた、非常に莫大な漱石の資料が大切に保管をされております。それから、岩波書店のほうは、漱石の最初の小説、「吾輩は猫である」が刊行された、その後、漱石全集等もこの岩波書店のほうで刊行されておりました、非常に業界では最もゆかりの深い書店、大学のほうも最もゆかりの深い大学かというふうなところで、私どものほうでも今後、委員からも御指摘をいただきましたので、東北大学、それから岩波書店のほうにもお声がけをして、御協力が得られるような努力をしていきたいというふうに考えております。

○松尾委員 この力の執行体制というところがありますが、教育委員会事務局につきましては、特に教育支援課と教育指導課が入っておりますけれども、具体的には、支援課と指導課の分担と申しますか、どのような形でかかわっていくのかについて、御説明いただけますか。

○教育支援課長 委員お尋ねのところにつきましては、主に学校への協力依頼といえますか、学校への連携について、こちらのほうで中心にさせていただいて、学校、教員関係の御協力をいただくような関係については、指導課のほうで改めてかかわるといようなことを、現在のところ検討しているところでございます。

○教育指導課長 先ほど支援課長がお話したとおり、学校への働きかけ、校長会などへの協力依頼などはしてまいりたいというふうに思っております。

○羽原委員長職務代理者 支援について、3,600万という非常に目標から低い寄附、これをもうちよっと企業、法人関係を含めて、何か一工夫ひねり出して、かき集めるべく御努力いただければと思いますが。

○文化観光課長 ただいま御指摘のございましたとおり、かなり目標額にはまだまだ到達するには遠い数字になってございます。こちらの基金につきましては、もちろん総額も大切なことながら、基金のなるべく多くの人に御賛同いただくという、2つの意味合いがございまして、そういう意味では賛同の輪は広がっているところでございますが、額がなかなか積み上がらないようなところもございます。委員からただいま御指摘ございましたとおり、今後、区内はもとより文化、歴史などに造詣の深い、あるいは今までも関心を示していただい

る企業などにも、個別にお声がけをさせていただくなど、努力を重ねてまいりたいというふうに考えてございます。

○白井委員長 ほかに御意見、御質問ありますか。

〔発言する者なし〕

○白井委員長 よろしいですか。

では、ほかに御意見、御質問なければ、報告4の質疑を終了します。

次に報告5、その他ですけれども、事務局から報告事項はありますか。

○教育調整課長 特にございませんので、よろしくお願いたします。

○白井委員長 それでは、以上で報告事項を終了いたします。

◎ 閉 会

○白井委員長 本日の教育委員会はこれで閉会といたします。

午後 3時42分閉会